

特別支援(知的)学級第3学年 国語科学習指導案

日時：令和3年9月10日（金）2時間目

1 単元名

「山小屋で三日間すごすなら」

2 単元の目標

- 比較(比べる)や分類(わかる・まとめる)のしかたを知り、友だちや教師と一緒にすることができる。
(知識・技能)
- 話し合いの目的や決めること、話し合いの進め方を友だちや教師と一緒に確認して、話し合いを進めることができる。
(思考・判断・表現)
- 相手を見て聞いたり、相手を見て話したりしながら、友だちや教師と考え話し合おうとしている。
(主体的に取り組む態度)

3 単元構想の意図

本学級の児童は、朝の会や帰りの会などで、自分がしたことやその感想を簡単な話型で話すことはできるが、問いに応じた受け答えをすることは難しい。また、発表したいという意欲をもち行うことはできるが、友だちの発表に耳を傾けたり聞き続けたりすることは難しいことが多い。

「話す・聞く」について3学年では、これまでの単元『よく聞いて、じこしょうかい』『もっと知りたい、友だちのこと』で学習し、話を聞いて質問をすることで分かることが増えることを知り、質問の仕方を試してきた。本単元においては、考えを広げる(それぞれが考えを出し合う)話し合いをし、それらの考えをまとめる活動を行い、意見を集約したり、目的に応じて話し合いを進めたりすることに繋げていく単元である。

話し合いを進めるためには、まず自分の考えを持ち、考えを出し合うことに備える必要がある。そこで、1時目に、教科書の挿絵を見て気付いたことを出し合ったり、野外活動で使用する道具のイラストを見せて確認したりする時間を設けたい。また、話し合いの目的や決めることを理解することも大切である。「しぜんとふれ合う活動」と「グループで持っていきたいもの」の枠を提示し、話し合いを通して決めていくことを視覚的に示すことで、話し合いの目的や決めることを意識させたい。さらに、自分の考えを短冊(カード)に書いておくことで話す考えを把握して心の準備をしたり、考えの書かれた短冊(カード)を貼って動かすことで、話し合いの内容が見てわかるようにしたりしていきたい。そして、友だちや教師と、話したり聴き合ったりすることに興味や意欲を持ちながら話し合いに参加して、みんなで決めることができたという経験とさせたい。

4 単元の計画(総時数3時間)

時	場面	学習活動(夢中に学んでいる姿)	資質・能力
1	見通す 考える	話題(しぜんとふれ合うなら、どんな物を持っていきたいか)を決める話し合いを行うことに興味をもつ。 「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を考えて短冊に複数書き出す。	目的を意識して、友だちや教師と一緒に話し合いに参加することに意欲をもつ。 (主体的に取り組む態度)
2	対話する 考える	短冊(カード)をもとに考えを出し合う。友だちの話に興味を持ち聞いている。 短冊(カード)を動かしながら、考えを比べたり分けたりしている。	相手を見て聞いたり話したりしながら、話し合いに参加しようとしている。 (主体的に取り組む態度) 友だちや教師と一緒に、考えを比べたり分けたりすることができる。(知識・技能)
3 本時	対話する 振り返る	「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を、友だちと話し合っ決めてようとしている。 決まったことを確認し学習を振り返る。	決めることを意識しながら、友だちや教師と一緒に話し合いを進めることができる。 (思考・判断・表現)

単元を通して育成したい子どもの姿

自分の考えを話したり、友だちの考えを聞いて、その考えを比べたりまとめたりする話し合いを通して、“みんなで決めることができた”という達成感を感じることができる姿。

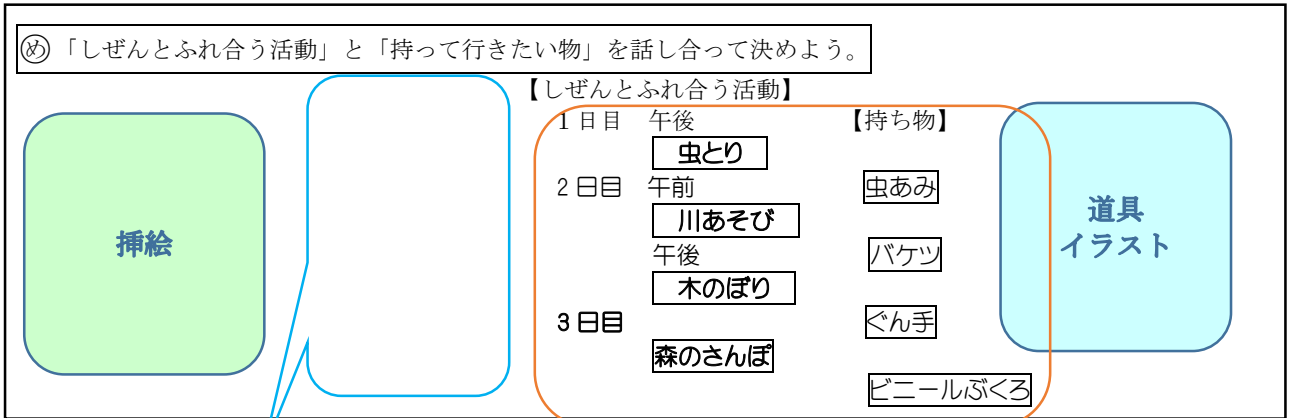
5 本時のねらい

みんなで話し合い、「しぜんとふれ合う活動」や「持っていきたい物」を決めることができる。

6 学習過程

	学習活動・内容(T 主な発問・C 児童の反応)	時間	○指導上の留意点 ◎研究主題に迫る手立て ◇評価
課題設定	<p>1 本時の学習課題を捉える。</p> <p>(1) 前時に整理した短冊を見直す。 T: 前の時間は「しぜんとふれ合う活動」と「持っていきたい物」を出し合いました。友だちの考えも聞きました。どんな活動がありましたか。 C: 虫とり。／川遊び。／木登り。 T: 楽しそうで、わくわくしますね。</p> <p>(2) 本時のめあてを捉える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 2px;"> <p>「しぜんとふれ合う活動」と「持っていきたい物」を話し合って決めよう。</p> </div> <p>(3) 課題解決の見通しをもつ。 T: 話し合いで、この枠を埋めていきます。 T: 「しぜんとふれ合う活動」は幾つまで? C: 3(4)つ。 T: みんなでできる活動を選びましょう。友だちのおすすめを試すのもいいね。 T: 「持っていきたい物」はいくつ? C: 5つ。</p>	8	<p>○ 前時に整理した短冊を見直すことで「しぜんとふれ合う活動」・「持っていきたい物」を出し合ったことを思い出させる。</p> <p>◎ 挿絵も提示しておき、山小屋の周囲の環境(川・大きな木等)や動植物等を一緒に見て確認できるようにする。</p> <p>◎ 持ち物枠: 5 枠、3 日間の予定枠: 4 枠を提示して、話し合いを通して埋めていくことをイメージできるようにする。</p> <p>○ 山小屋で過ごすのは“3日間”であり複数の活動ができること、「持っていきたい持ち物はグループで5つ」であることを確認してから話し合いに入る。</p> <p>○ 活動は“みんなで”行うことを確認して、自分だけの希望を通そうとすることを防ぐ。また、単元を通して、自分の考えが全部叶えられるとは限らないことへの了解もはかる。</p>
課題解決	<p>2 考えを出し合い、短冊を貼る。</p> <p>T: 始めに「山小屋でしたいこと」を決めます。どんなことがしたいですか。</p> <p>① 複数の活動が提案される</p> <ul style="list-style-type: none"> それぞれの活動に応じた持ち物を確認し、5つに決める。 活動が足りない際には、持ち物を生かしてできる活動を決める。 <p>② 児童全員が同じ活動を提案する</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動に必要な持ち物を出し合い、5つに決める。 その持ち物を使用してできる活動を決める。 	30	<p>○ 進行は教師が行い、児童の考えを把握しながら発言を促し個々に発言の機会を設ける。</p> <p>○ 児童から「山小屋でしたいこと」が幾つ出てきたかに応じて話し合いの進め方を変える。</p> <p>【話し合いの進め方】</p> <p>① 複数の活動が提案される →したいことから持ち物を決める。</p> <p>② 児童全員が同じ活動を提案する →持ち物を決め、その持ち物から広げ、他にもできることを考える。</p> <p>◎ 持ち物(軍手・バケツ等の一般的なキャンプ時の持ち物のイラスト)を掲示し、考えたり話したりする際に、児童が見て活用することができるようにする。</p> <p>○ 持ち物から活動を考える際には、同じ物でも複数の用途があることを伝える。 例: 手袋～熱いものも掴める・素手では痛い物も掴める・はめると滑りにくい</p> <p>◇「しぜんとふれ合う活動」や「持っていきたい物」をみんなと話し合い決めることができたか。(観察・発言)</p>
振り返り	<p>4 本時のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 話し合いで決めた「しぜんとふれ合う活動」と「持っていきたい物」を確認する。 本時の感想を話す。 	7	<p>○ 決めたことは枠に書き込み、話し合いで決めた成果として共有できるようにする。</p> <p>○ 考えて発表したことやみんなと協力した言動等を個々に伝えて称賛する。</p> <p>○ 「話し合い」は学級での話し合いにも生かせることも話し、実際に実施する機会を設ける。</p>

7 板書計画（ホワイトボード）



カードを動かしたり貼ったりして進行状況を示す。

話し合っ決めては、空枠でスタートして順次埋めていく。